

公表 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	アフタースクールスマイルステーション谷町		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日 ~ 2026年 2月 14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日 ~ 2026年 2月 14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	マンツーマンで一人一人の特性に合わせた支援をしている。	できるだけ多くの職員でこどもに関わり、こどもの特性やニーズを見逃さないようしている。定期的に外部講師の方に職員研修に来ていただいている。心理職や保育士、教員などの様々な資格をもった職員で支援している。	引き続き、職員研修などを通して、職員一人一人の専門性を高めていく。こどもや保護者とのコミュニケーションを積極的にとり、寄り添った支援をおこなっていく。
2	資格を持った職員が中心となって支援している。	職員の専門分野を生かして、教材選定や教材づくりを行っている。職員間で利用者様の対応ややりとりのコツなどについて、話し合っている。	研修を実施し、各職員の知識や技術向上を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時等の対応について、マニュアルの策定や訓練の実施について「わからない」という意見が多い。	各種マニュアルは入り口に常時設置しているが、そのことを保護者に周知できていない。避難訓練については、年に3回以上おこなっているが、こどものいない時間帯に職員のみでおこなっているため保護者の認知度が低い。	すまいる通信でマニュアルの場所や訓練の様子を周知するとともに、重要な内容は紙媒体でも配布するなど、できるだけ多くのツールを使って情報伝達に努める。また、こどもたち一人一人に非常時の対応について話をする時間をつくる。
2	保護者会開催の認知度が低い。	すまいる通信以外での宣伝をおこなっていないので、保護者に情報が伝わりづらい。	すまいる通信での宣伝に加え、チラシをつくるなどできるだけ多くのツールを使って宣伝する。